

# 『1回の会議あたり、出張コスト約92万円・移動時間85時間削減を実現 遠隔会議は、一つのツールとして当たり前になりました』

実際に使っているお客様に直撃インタビューしました



## 全国Aコープ協同機構（JA全農）様

<p><b>■導入先</b></p> <p><b>■お客様名称</b> 全国Aコープ協同機構(JA全農)様</p> <p><b>■お客様の業種</b> 流通業</p> <p><b>■お客様の主な業務内容</b> 店舗事業</p>	<p><b>■導入商品</b></p> <p><b>■機器構成</b> P3000×20台</p> <p><b>■ご導入拠点</b> Aコープ協同機構メンバー会社 全国16拠点 (岩手・宮城・山形・東京・神奈川・長野・富山・石川・三重・京都・大阪・広島・福岡・佐賀・宮崎・沖縄)</p> <p><b>■料金体系</b> シングルフラット9</p> <p><b>■導入形態</b> 新規導入</p>
--	--

### 導入の背景

これまでの会議は、東京に集合し、年20回程度開催していました。出張コストが高く、移動に時間もかかり、スケジュール調整も大変でした。外部取引先やバイヤーとの商談の増加や、協同機構活動の高度化等により、情報交換・協議の必要性が高まっていました。

### 導入前の課題

これまでの集合型の会議では、1回の会議あたり約92万円出張経費がかかっており、コスト削減が課題となっていました。また、会社の代表者だけが参加する会議では、実務担当まで情報が浸透していかないこともありました。

### P3000をこのように利用しています

経営会議、幹事会といった、経営者層では、これまでどおり集合型の会議を実施していますが、バイヤー会議、外部取引先との商談等はP3000で実施しています。

バイヤー会議は、青果、惣菜、日配、一般食品、菓子等それぞれの部門毎に定期的に行っています。

また、外部取引先との商談は、一般食品、菓子、酒類、惣菜部門毎に、週1回遠隔会議を実施できるようになりました。その他、エリア単位のブロック会議は必要に応じて随時開催し、メールや電話の代わりに30分程度の打合せでもP3000を利用しています。

さらに、外部講師を呼んでセミナーの開催等にも利用を拡大しています。

### 導入後の効果

1会議あたり、**出張コスト約92万円削減、移動時間85時間削減**されています。

これまでの会議では、バイヤーが複数人いても代表者のみの参加でしたが、P3000で複数人参加できるようになったので情報協力がスムーズになりました。

また、ビデオ会議は、商品を実際見せることもできますし、サンプル品を事前に配って、遠隔会議で試食したり、メールや電話では伝えづらいことも、要領よく伝えることができています。

### お客様の声・今後の展望



P3000導入後、コミュニケーションの頻度も上がり、情報伝達のスピードアップが図れています。

P3000を利用した遠隔会議は、グループ内全体で一つのツールとして当たり前になりました。ひとつの文化がこれで出来たという感じです。

協同機構システム担当  
川嶋 範子様



一般食品チームのバイヤー会議中です。



全国拠点と接続。  
発言者が自動的に画面に大きく表示されます。



Wi-Fiルーターでも接続しています。